

试卷编号: A 卷试题

河南师范大学

2012 年硕士研究生入学考试业务课试卷

科目代码: 632 名称: 基础日语 适用专业或方向: 日语语言文学
(必须在答题纸上答题, 在试卷上答题无效, 答题纸可向监考老师索要)

一、次の文の_____にはどんな言葉を入れたらよいか、最も適当なものを一つ選びなさい。(2×15=30点)

(1) 彼は以前よく問題を起こしたが、過去のことはともあれ、_____。

- 1、現在も問題を起こしがちだ
- 2、現在はまじめにちゃんと働いている
- 3、厳しく考えると許すことはできない
- 4、現在のことはどうでもいいではないか

(2) 彼女はピアノを最後までひくにはひいたが、_____。

- 1、まちがいが多かった
- 2、まちがえなかった
- 3、かなりうまかった
- 4、すばらしい演奏だった

(3) こんな掘り出し物を見つけてくるなんて、彼はさすがに_____。

- 1、足がはやい
- 2、口がたつ
- 3、目が利く
- 4、手が回る

(4) _____なんともない。

- 1、昨日は頭痛がひどかったが、今日は
- 2、なにか食べようと思って冷蔵庫を開けたら、
- 3、子供たちはテレビゲームに熱中して、勉強は
- 4、二人の交際は長く続いていたけれど、最近は

(5) 私の説明が_____だったので、多くの人々に迷惑をおかけした。

- 1、不確実
- 2、不可欠
- 3、不満足
- 4、不十分

(6) その子供は空_____帽子を投げた。

- 1、をめざして
- 2、に沿って
- 3、につれて
- 4、に向かって

(7) 彼は中学生にしては_____。

- 1、いまだに中学生らしい
- 2、中学生らしい中学生だ
- 3、中学生みたいだ
- 4、大人っぽく見える

(8) 今回の火事はとても_____ことで、なんと慰めていいのかわかりません。

- 1、ねたましい
- 2、くるしい
- 3、困難な
- 4、気の毒な

(9) この絵の虎はまるで本物のようだ。今にも_____。

- 1、絵から飛び出すらしい
- 2、絵から飛び出すそう
- 3、絵から飛び出す
- 4、絵から飛び出してくるそう

- (10) _____、日本人は勤勉を美德と考えている。
- 1、良いか悪いか 2、良かれ悪しかれ
3、良ければ悪ければ 4、良くなくとも悪くとも
- (11) _____テレビをつけたら、私の好きな歌手が歌を歌っていた。
- 1、なんとなく 2、なんだか 3、なんといつても 4、なんとか
- (12) 誰_____も一度や二度はそんなケースに出くわしたことがあるはずだ。
- 1、か 2、し 3、と 4、や
- (13) 彼には、もはや帰る_____家もない。
- 1、はず 2、べき 3、できる 4、わけ
- (14) 交通規則を守るのは_____ことですが、それ以上に譲り合うという気持ちが大切です。
- 1、適当な 2、当然の 3、決定的な 4、好適な
- (15) ゆかた姿にサンダルばきでは_____がない。
- 1、風景 2、風物 3、風情 4、風流

二、次の日本語を中国語に訳しなさい。(2×5=10点)

1. このうどんは腰が弱い。
2. 私たちの学校では、授業の1時間は50分です。
3. 君の話には飛躍がある。
4. ほかのことを考えていて、頭がお留守になっていた。
5. 熱心に話を聞く。

三、次の中国語を日本語に訳しなさい。(2×5=10点)

1. 他的工作和他的专业对口。
2. 我们要跟群众打成一片。
3. 这篇文章生动活泼，内容丰富。
4. 把银行卡插入磁卡口，按照画面提示操作取钱。
5. 被机场安检截住验包。

四、次の本文を読んで、後の問いに答えなさい。(19点)

今の子供と違って、ぼくらの少年時代は、盛んに親から用事を言い付けられた①ものだ。ぼく自身は独りっ子で、わがままに育てられたから、それほどでもなかったが、お使いを言い付かって出かけることが、子供にとっては一種の娯楽を兼ねている場合だってあった。

——道草を食う、この言葉は、元来そういう愉しみを言い表したものである。

これはぼくが中学生の四年生か五年生の時のことだ。もう子供とは言えない年齢で、しかしもちろん大人になっているわけでもない。そういう②中途半端な年頃になると、もう親からものを頼まれても、嬉しいとは思えなくなる。使いに出てみたって、外に大しておもしろいことなどあるはずもないことを経験によって悟り始めるからだ。その時も、夕方になって母親から突然、東京へ出て来ていたS叔父のために、帰りの列車の寝台券を買いに行くように言い付けられると、まず面倒くせえな、という気がした。

この叔父は変に気まぐれな男で、ぼくはこれまでも彼の、③おかげで、再三こういうぐあいに突発的に用をさせられている。

「自分が帰る汽車の寝台券ぐらい自分で取りに行ったらいいじゃないか。」

「また、そんなことを言う。Sさんは、今夜はどうしても人と④会っておかなければならない用事があつて出かけちゃったのは、おまえも知っているだろう。ぐずぐず言っている暇に、早く行っておいで。」

⑤母は、普段は叔父のことを、あんなにずうずうしい男はいない、などと陰口をきいてばかりいるくせに、⑥こういう時に限って、なぜか叔父の肩を持ちたがる。

母は玄関先で、叔父から預かった金をふきげんな顔つきで手渡した。ぼくは、そいつを無造作にたもとに突っ込んで——そのころぼくらは普段着にかすりの着物を着せられていたものだ——聞いた。

「⑦行くよ、行くからそのかわりに、おつりはもらっといていいんだろう。」

「さあね。自分で叔父さんにきいてごらん。」

母は冷淡に答えた。どうせ⑨ガッチリ屋の叔父に、そんなことをぼくが言い出せっこないことは、よく⑧知っているのだ。ぼくは、むつつり黙って外へ出た。すると、とたんにあたまに冷たいものが落ちてきた。いつの間にか雨が降り出していたのだ。ぼくはますます憂鬱になりながら、引き返すと重い毛繻子のこうもりがさを片手にさして、すっかり暗くなった道を歩きだした。

(中略)

その瞬間ぼくはドキリとした。柔らかいところを探った手に、堅いボール紙の感触があつて寝台券のあることは確かめられたが、窓口の台の上に、さっきぼくが出した五円札がまた載っていたからだ。いや、それはさっき出した札とは違う、確かに別の五円札だ。

駅員の頭の真上のあたりに、長いコードがつるされた電気が緑色の傘をかぶってぶら下がっていた。しかし、石の台の上に置かれた五円札(A)、明らかに、ぼく(B)家を出るとき、母から渡されたものと同じではない。駅員(C)、その紙幣の上に何枚かの五十銭銀貨や十銭、五銭の白銅貨を、物慣れた手つきで重ねていた。

ちゃりん、と最後の銅貨が石の台に当たってたてる音が、僕の胸の底まで刺すよう

に響いた。ぼくは心臓の血が全部いっぺんに頭の中に込みあげてくる気がした。そして台の上の金を手の中に握り締める⑩が早いか、⑪大急ぎで窓口を離れた。——しめた、駅員のやつ、つり銭を間違えやがった。

ぼくがほとんど夢中で駅前の人ごみの間を擦り抜けた。自分の手の中に、自分の使っている五円札がある。——あらためてぼくが、そんなことをハッキリと考えられるようになったのは、もう高架線のガードが完全に町の建物の陰に隠れて見えなくなってからだ。それまでの間、ぼくはただ駅員がつり銭の間違いに気がつき、追い駆けて来ることだけを恐れた。しかし、もうここまで来ればその心配はなかった。

[設問]

問一 (A) ～ (C) に「は」・「が」のいずれかを入れなさい。(3点)

問二 下線部①「ものだ」と同じ働きのものを次の中から選び、記号で答えなさい。(2点)

1. いぜんはこの川でよく泳いだものだ。
2. 毎日同じものを食べていればあきるものだ。
3. 何とかして日本にも観測所を作りたいものだ。
4. この道を走るといつもいい道路ができたものだと思う。

問三 下線部②「中途半端」の読み方を平仮名で答えなさい。(1点)

問四 下線部③「おかげで」を別の言葉に言い換えなさい。(1点)

問五 下線部④について「会っておく」の「おく」と同じ働きのものは次のうちどちらか、記号で答えなさい。(1点)

- 1、ゾウムシを紙袋に入れて放っておく
- 2、会議までに資料をコピーしておく。

問六 下線部⑤には「ぼく」の「母」にたいするどのような気持ちが表れているか。次の中から最も適当なものを選び記号で答えなさい。(2点)

- 1、親愛 2、非難 3、驚き 4、感謝

問七 下線部⑥「こういう」の指示内容を説明しなさい。(2点)

問八 下線部⑦とあるが、結局「ぼく」はおつりをもらえると考えてよいのかどうか、次の中から適当なものを選び、記号で答えなさい。(2点)

- 1、もらえると考えてよい。 2、もらえると考えない方がよい。
- 3、この時点ではどちらともいえない。

問九 下線部⑧「知っている」の主体は誰か答えなさい。(1点)

問十 下線部⑨「ガッチリ屋」とはどのような人のことをいうのか、次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。(1点)

- 1、体格がよい人 2、怒りっぽい人 3、真面目な人 4、けちな人

問十一 下線部⑩「が早いか」を別の言葉に言い換えなさい。(1点)

問十二 下線部①「大急ぎで窓口を離れた」のはなぜか、その理由を説明しなさい。
(2点)

五. 次の話は、南の国に古くから伝わる「サル カメ バナナ」という民話である。
この話について、あとの問いに答えなさい。(31点)

あるときバナナの木が川を流れてきた。ゆーらり、ゆーらり。

「半分にしようよ。」とカメ。「いいよ。」とサル。

そこで二匹は、のこぎりで木を切った。「ぼくのはこっち。きみのはそって。」①
葉のついた木の方を、サルが急いでとった。カメの前には根っこのついた下半分が
ごろり。

それからずいぶんたったある日のこと。カメがサルにたずねた。「サルさん、バナナ
の実もうなった?」「全然。枯れちゃった。」「じゃあ、わたしのバナナ見においでよ。
元気にでっかく育ったよ。」

「(4)の木には[e]としたバナナがずらり。(5)は見上げながら「うまいん
だろうな。食いたいな。」と口をとがらせた。」「じゃあ、とって来て。わたし、木登り
苦手なんだもん。」と(6)は言った。

(1)は[a]と木に登り、バナナをもぎ取って[b]。十本、十一本、……。
おこった(2)は、あっと言う間にとがった貝がらを集めて来て、木の根元にくつつ
けた。(3)は、[c]とココナッツのからの下にかくれた。根もととは、[d]と
一面とがったとげでいっぱい。

降りて来たサルは、とがった貝がらが体中にささり、血だらけ。怒ったサルは、カ
メを見つけてひっつかむと、[f]と叫んだ。

「八つ裂きにしてやる。」ところが、カメは平気な顔でこう言った。②「まあ、うれ
しい。それはわたしの方からお願いしたいことよ。だって、わたしの体、二つに引き
裂かれれば二匹のカメに、四つに引き裂かれれば四匹のカメになれるんだもの。はや
くたくさんのわたしになってみたい。」

それでサルはあわててこう言った。「じゃあ、火あぶりだ。」「まあ、それも願っても
ないことよ。わたしの体を焼いたら、わたしのにおいがそこら中にたちこめるのよ。
いつになってもなくならないくらい強いにおいよ。はやく永遠のにおいになってみた
いわ。」

サルはまたあわてた。「じゃあ、川に放り投げてやる。」カメはこわがってこう言っ
た。「お願い、それだけはかんべんしてください。」

それを聞いたサルは、しめしめとカメを川に放り投げた。ところがカメは水の上ま
で浮かび上がって来て、「ばかなサルさん、おりこうそうな顔して、いったい何を考え
ているの。」と言って逃げて行ったとさ。

(小島希里・堀田正彦『バランゴン一島からとどいたバナナのえほん』による)

- (注1) 火あぶり：火であぶること
(注2) 八つ裂き：ずたずたに裂くこと

問一 文中の(1)から(6)に、「カメ」か「ザル」のどちらかを入れなさい。(6点)

問二 文中の[a]から[f]の中に入る、もっとも適当な言葉を、ア、からカ、の中から選んで、記号で答えなさい。(6点)

ア、そっ イ、きーきー ウ、むしやりむしやり
エ、ぐるっ オ、するするっ カ、ふっくら

問三 傍線部①の「ぼく」と「きみ」はそれぞれ、だれをさしているか。(4点)

問四 傍線部②に「平気な顔でこう言った」とあるが、どうして平気な顔をしたのだろうか。(5点)

問五 この話の中では、サルとカメはどのように描かれているか。サルとカメの性格や、力関係などを考えに入れた上で、できるだけ詳しく書きなさい。(10点)

六、次の『論語』の文章の文法を説明しなさい。(2×5=10点)

子曰はく、^し學んで^{まな}時に^{とき}之^{これ}を^{なら}習ふ。亦^{また}説^{よるこ}ばしからずや①。朋^{とも}有り② 遠方^{えんぽう}より③ 来^きたる、亦^{また}樂^{たの}しからずや。人^{ひと}知らず、而^{しかう}して 慍^いらず④、亦^{また}君子^{くんし}ならずや⑤。

問一 ①「説ばしからずや」

問二 ②「有り」

問三 ③「より」

問四 ④「慍らず」

問五 ⑤「ならずや」

七、次の文章を読んで、自分の考えを800字ほど書きなさい。(40点)

人類は、大したものだ。自然界に存在しないものをいっぱい作り出した。では、これは可能か。太陽の光を使い、水と二酸化炭素を原料に、酸素やブドウ糖、でんぷんをつくる。▼残念ながら、これまでのところ否だ。だが、植物は、その光合成をいとも簡単にやっている。偉そうなことを言っても、人類は、田中修著『ふしぎの植物学』が言うようにくたった一枚の小さな葉がやっている反応を真似することができないのである。▼それに挑む、というのだから野心的な研究テーマだ。実現すれば文

字通り地球を救う大成果で、ノーベル賞ものだが、研究の提唱者がノーベル化学賞を受けた根岸英一さんだと聞けば、もしや、という気もしてくる。▼それにしても、自然とは何とすごいものか。石田秀輝著『自然に学ぶ粋なテクノロジー』によれば、例えばクモの出す中で一番強い「牽引糸」という糸は、もし直径四センチのものがあれば、計算上は、ジャンボジェット機が持ち上げられるほど強いらしい。▼そんな自然のテクノロジーを真似て、新素材などを生み出そうとする研究も盛んになりつつあるという。根岸さんの「人工光合成」も含めて、今後が楽しみである。▼無論、簡単にはいくまい。でも、それも悪くないだろう。苦勞すればするだけ、私たちは一枚の葉、一匹のクモのすごさをあらためて思い知ることができる。

(中日春秋 2011年1月20日より)